

決 意 表 明

新しいつくばを創る市民の会

私たち「新しいつくばを創る市民の会」は、市民の暮らしや福祉を守り、公正で清潔な市政が推進されることを願い、市民の目線で行くつくば市政をウォッチする市民運動を行っています。同時に、諸団体、諸会派と共同して、憲法と平和・民主主義を暮らしの中に生かす活動にも参加しています。

この 1 年間取り組んできた主な活動としては、第一に、「つくば市民白書 2020」の発行があります。白書 2020 実行委員会に参加し、つくばの市政、暮らしの現状や問題点などを市民の目線でとらえ、今後の課題や提案をまとめて市民の方々に提供してきました。

第二に、2020 年はつくば市長選挙が行われましたが、市長との懇談会を開き、4 年間の市政運営で、公約実現に向け事業工程をロードマップとして公表し達成状況を点検していること、水道料金の大幅値上げの見直しや国民健康保険税の値上げを抑制したこと、保育士の待遇改善や学童保育の改善を進めたこと、住宅リフォーム補助制度を創設したことなど、福祉・教育・中小零細企業支援等の面で市民に寄り添う市政が見られたことから、五十嵐市政を支持する立場で望みました。しかし、2021 年度予算では、在宅高齢者布団丸洗い乾燥事業の削減、敬老祝金の廃止、公立保育所の統廃合など福祉政策の後退が目立ち、つくばセンター広場のリニューアル事業に関しても、ユーザーでありプレーヤーである市民の声をまともに聞かずに進められるなど、市民から様々な問題が指摘されています。私たち「市民の会」は、現市政に何でも賛成の立場は取らず、個々の課題について市政をしっかりとチェックし、市民要求の実現に力を尽くす決意です。

第三に、戦争をする国づくりNO@つくば実行委員会に参加して、「安倍政治を許さない」活動に全力で取り組んできました。駅頭でのスタンディング、チラシ配布、集会とパレード、学習会などを重ね、現在は、「安倍9条改憲NO！市民アクションつくば連絡会」の中核団体として、9条改憲NO！改憲発議に反対する全国緊急署名運動を進めています。

「新しいつくばを創る市民の会」は、これからもしっかりと市政を監視し、また憲法や平和を守る運動にねばり強く関わっていくこと申し上げ、決意表明とします。

2021.5.1

新しいつくばを創る市民の会 共同代表 山本千秋



憲法9条の会

「憲法9条の会つくば」は、2005年に設立し、16年目になります。

私たちは、大江健三郎氏など9人の呼びかけで設立された「九条の会のアピール」に賛同し、憲法9条を守るという一点で手をつなぎ、日本と世界の平和な未来の実現に寄与することを目的として活動を行っております。

昨年に続き、コロナ禍でのこういう形ではありますが、会を代表しまして決意表明をさせていただきます。

始めに個人的な話しになってしまいますが、私は音楽家として活動しておりますが、コロナ禍にあって、一時期全く仕事が出来ない状況になりました。ちょうど昨今の今頃です。指導する仕事は2か月半に渡り全く出来なくなり、演奏活動に至ってはほぼ皆無の状況でした。

そのような中、11月に憲法9条の会つくばが主催し、我々音楽家のメンバーに活動の場を与えてくださる目的で「おひさしぶり！出会いのコンサー

ト」を企画してくださいました。

結局、今年のコロナ禍後にステージで歌えたのはこの時だけでした。私にとってもありがたい時間でしたが、密を避けるために人数制限をしたとはいえ、満席となったその日のお客様方も人々が集えることや音楽を聴けることの幸せを感じてもらえたようでした。

これまで、レッスンを行えば生徒さんが集まってくれる、コンサートを行えばお客さんが集まってくれることが当たり前とと思っていましたが、それは特別なことで、とてもありがたいことであったということ、この1年で実感しました。

それに加え、音楽家として時として無力感も感じつつも、音楽や芸術が人々の心を動かす力を持っていて、それをもっと活かしていきたいという気持ちも高まりました。

「当たり前と思っていたことが当たり前でない」。

このことは、今回のコロナ禍で私だけでなくほとんどの人がそう感じられたのではないのでしょうか？

それと同じように「日本は平和で安心して暮らせる国」と多くの人が思っていることも、実は当たり前でなくなりつつある危機的状況であるということ、こういう経験をした時期だからこそ気付いて欲しいと思います。

今、日本が平和でいられるような盾となっている憲法9条を改悪して、戦争の出来る国にしたいと考えている安倍→菅政権は、今はコロナ禍で正体を見せていませんが、何年もかけていろいろな法律を変えて、外堀を埋めようとしています。

コロナももっと上手く対処して収めることも可能であったはずなのに、混乱を助長し、国民をあらぬ方向に導こうとしているという穿った見方もしてしまいます。

いずれコロナは収まる時が来るとは思いますが、日本人にとって、また世界

にとっても掛け替えのない憲法9条を未来永劫守り続けることが、真に「平和で安心して暮らせる国」であるということを、アピールし続けていきたいと思えます。



新日本婦人の会つくば支部・土浦支部

昨年来のコロナ禍のなか、多くの労働者が職を無くしたり、収入が激減して生活困難におちいりました。特にケア・ワークの多くが低賃金・不安定雇用の女性たちによって担われていること、家庭での家事・育児・介護も多くが女性の無償労働によって支えられていることも、改めて浮き彫りになりました。

性暴力に対する無罪判決や女性蔑視発言が相次ぎ、日本のジェンダー格差の大きさも目に見えてきました。日本のジェンダー指数は世界で120位と先進国では最下位です。特に政治分野の遅れが大きく、女性議員の数は衆議院で9.9%、世界ランク166位と大きく遅れています。今こそ女性の声を政治に届け、活かすことが望まれています。

今年も集会の開催が見送られたことは本当に残念です。5月の青空のもと、多くの人びとが集うメーデー。労働者の祭典として時々の課題・要求実現めざす団結の日として、続いてきたメーデー。来年こそはコロナを克服して、広場での集会開催を実現させたいものです。

私たち新日本婦人の会は創立以来59年、平和、子育て、暮らしなど女性の願いを実現するために活動してきた女性団体です。2003年には国連NGOに認証され、持続可能なジェンダー平等社会をめざしています。働く人の権利と暮らしが守られる社会、平和で核兵器のない世界、ジェンダー平等な社会の実現めざして、共に活動することをここに決意します。

第92回つくば中央メーデーばんざい！



筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会

第92回メーデーに際して、私たちは、日本学術会議会員の「6名の任命拒否」について決意を表明します。

「6名の任命拒否」は、昨年9月28日に菅総理が、学術会議会員105名を任命するべきところを、99名しか任命しなかった問題です。これは、「学問の自由」に基づく「日本学術会議法」に違反する行為です。学術会議の役割は、あくまで政府から独立し、学術のみに基づく不偏的な見解の提示をして、政府に科学的な助言をすることにあります。学術会議の政府からの独立性を保証するために、政府は学術会議会員の人事に介入してはいけません。

何故、学術会議会員の任命拒否をしたのでしょうか？ 日本学術会議を政府の方針に協力する組織に変えたいというのがその理由です。菅総理は、任命拒否の理由を説明せずに、学術会議の要請を無視し続けているため、学術会議が政府から独立した組織として存続できるかどうかの瀬戸際に来ています。

「学問の自由」は学者・研究者の問題と受け取られる方が多いと思いますが、実は、国民全体にかかわる、「思想及び良心の自由」、「言論、表現の自由」に関わる問題であることを訴えたいと思います。なぜならば、戦前の歴史が示すように、「学問の自由」を学者から奪うことから始まり、続いて、国民全体の自由を奪い、そして侵略戦争に向かっていった事実があるからです。この問題では、学術会議への、広範な国民の理解と支援が必要です。

私たちは、学術会議の役割を守り、その立場を支持していく決意です。



JMITU 東京電機支部

私たち JMITU 東京電機支部は、組合員の待遇や職場環境を向上するため日々活動しております。去年から今年にかけ、新型コロナウイルスにより私たちの生活は一変しました。特に小さな子供を持つ家庭への影響は大きく、食費の増加、子供の自宅待機による欠勤、リモート教材の購入など、急な出費が増え、生活が非常に苦しくなりました。今年の春闘では、この現状を会社に伝え、組合員が安心して暮らせるように、賃上げを要求しました。結果としては、同意を得られる回答ではありましたが、一部では、まだまだ物足りない金額だ、という声もありました。これらの不満の声は、春闘で終わらすのではなく、次の夏の一時金要求時に反映させ、会社へ交渉していこうと考えております。

またコロナの感染拡大防止の意識を高く保つため、私たちは会社と共に様々な事を始めました。入社時に検温し、体調管理表に記載。アマビエちゃんに登録。毎朝、医療従事者への感謝の気持ちを込めて、社員全員でクラブ・フォー・ケアラズ。最初は慣れない事で戸惑いもありましたが、仲間や家族を守る事に繋がるからこそ、取り組み続ける事が出来ました。

コロナ危機を脱却する為には、このような日々の小さな積み重ねが大切で、この積み重ねが医療崩壊を防ぎます。私たちは命と暮らしを守るために一致団結し、これからも日々活動する事を決意します。